

## 「泣いてもいいんだよ、でも がんばろうね」



たんぽぽ小児歯科医院 歯科衛生士

**守田 小百合**

## ■ 略歴

- 1988年 大分歯科専門学校卒業  
 1988年 村上歯科勤務（熊本）  
 1994年 たんぽぽ小児歯科勤務  
 （現在に至る）

歯科治療に対して、子供はもちろんの事お母さん方も程度の差はあるものの不安や恐怖感をもっています。特に自己の感情をコントロールできない子供が、見慣れないものの並ぶ診療室で、無防備な仰向けの体勢で口を開けその様なお母さんの気持ちを敏感に感じ取って“泣く”のは当然だと思います。この様な状況の中で、デンタルスタッフは、子供やお母さんにとって接しやすい存在だと思います。歯科医師と直接接する前に話を聞いて悩みを聞く事は、単に問診をとる以上の、以後の診療を円滑にする意味のあるものだと考えてます。

また子供達の緊張を和らげる様に、待合室や診療室の雰囲気を作る事もスタッフの大切な仕事のひとつです。

母親と離されたために泣く、甘えて泣く、恐怖心のために泣く、痛くて泣く、など子供の“泣き”にも色々なタイプがあります。“泣く”事自体悪い事だとは思いませんが、歯科治療に支障ができるのも困ります。その様な子と接する場合、その子がどのくらいの発達段階で、どの様な性格なのか、なぜ泣いているのか、理解する事は簡単な事ではありませんが大切な事だと思います。そのためには一般的な成長発育の知識も必要でしょうし、お母さんとの対話も参考になります。

泣いている子よりも、治療は上手にできているが“耐えて、我慢している”ような子に対してのほうが、いっそう神経をつかうといった経験をお持ちの方も多いと思います。常に励ましの言葉をかけたり、注意を治療以外の事に向ける様、歯科医師と一緒にになって努力する事もスタッフの大切な役割のひとつでしょう。またその様な子の場合こそ、笑気吸入鎮静法も有効であると思います。

当院では、スタッフが交代で受付窓口業務も行います。そこで見ることのできる待合室での子供やお母さんの様子、性格、親子関係などを参考に、子供達と対応している毎日です。今回はその様な診療以外の様子も紹介していきたいと思います。